クラス番号	631	担当教員名	永岡 正己
テーマ	地域福祉の歴史と思想の研究		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】テーマに関する共著・編著に『地域福祉の源流と展開』中央法規出版、1993、『自治型地域福祉の展開』法律文化社、1993、『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望Ⅱ』ドメス出版、2001、『日本社会福祉の歴史・付史料』ミネルヴァ書房、2003、『社会福祉政策理論の検証と展望』中央法規出版、2007、『石井十次の残したモノ—愛染園セツルメントの100年』石井記念愛染園（2010）など。</p> <p>【研究課題】社会福祉理論・思想史、地域福祉実践史、セツルメント運動史、キリスト教福祉</p>		

ゼミナール概要

キーワード：社会福祉史、地域福祉施設、福祉実践、人権、セツルメント、ボランティア、当事者活動

【目的】地域福祉の実践はどのように築かれてきたか、人々はどのように取り組んできたか、その歩みと思想を歴史と現在の中から具体的な事例を通して学び、地域に根ざした社会福祉がどのように発展してきたかを理解する。そして、個人の背後にある家族、家族の背後にある地域社会をどのように捉えて社会福祉の仕事を行っていけばよいか、専門職として、また市民活動にとって必要な福祉の思想、問題解決への視点や方法を身につける。

【内容・方法】

- ①地域福祉（広い意味で）に関する制度、サービス、施設と地域の実践、運動、思想・理論について、資料・文献（著書、雑誌類）を中心に、その歴史的展開を理解し、地域福祉とは何か、その意義は何かを明らかにする。
- ②福祉問題の歴史的な分析の仕方や、歴史資料、記念誌、論文等の探し方、読み方、用い方を身につける。
- ③参加者の関心にもとづき、制度、地域福祉施設（保育所、学童保育、社会館、デイケア、ホームレス支援など多岐にわたる）、社会福祉協議会、民生委員児童委員、セツルメント運動、当事者団体、ボランティア・NPO、国際福祉活動など、さまざまな事例を取り上げて、いのち、人権、生活、地域の視点がどう深められてきたかを考え、歴史と今日の課題を検討する。また理論と思想、生活史、災害史、民俗学や文化、文学の視点からも地域福祉の意味を考えたい。
- ④人権と差別に関わる課題等についても取り組みたい。また本学の研究・実践サークルの歴史等も対象とする。
- ⑤それらの取り組みを通して、相互の交流を図りながら、各自テーマを定めて卒論を完成させる。

【授業計画】

3年前期：参加者の関心を話し合い、研究・ゼミ活動の課題と年間計画を決めた上で、各自の研究課題を明らかにする。また社会福祉・地域福祉の歴史的展開と現在の課題について基礎知識を身につけるとともに、図書館や施設・社協等が所蔵している歴史資料の探し方や読み方について理解する。また歴史のある施設・団体や開拓的な活動について訪問・見学し、資料調査等を実施する。

3年後期：各自の問題意識を深めて、研究文献の検討や史資料の収集を行い、順次報告を行うとともに、地域福祉の課題や方法の理解を深め、先駆的な活動のもつ働きや意義の整理を行う。3年の終わりに卒論中間報告会を実施する。

4年：卒論の作成に取り組む（重要な事例について共同で取り組む場合もある）。社会福祉・地域福祉の歴史的課題や展望を考え、各自の論文作成の作業と討議を通して、これからの私たちの仕事に必要な力も身につけるようにしたい。

*地域福祉実践の歴史と現状の見学（釜ヶ崎の活動、石井記念愛染園など）を関西で行う予定です。日本地域福祉施設協議会大会（2月）にも可能であれば参加したいと思っております。テキストは開講後、話し合いの上決定します。

担当教員からのメッセージ

社会福祉は歴史的存在だと言われます。政策・制度も民間の活動も歴史の時間の中でさまざまな要因によって生まれ、今日に至っています。暮らしと福祉の歴史に関心があり、歴史が好きであれば、テーマや方法は自然に深まり、研究の楽しさや意義が実感されると思います。ゼミは皆さんが共につくる活動なので、主体的・積極的に参加すること、仲間として互いを大切にすることを願っています。就職のことなど何でも語り合えるように、また国家試験等の学習も支援しますので、一緒に取り組む場としてゼミを大事にしてほしいと願っています。皆さんの出身地にある施設や地域福祉実践の歴史、サークルの活動の歴史などもゼミのテーマに位置づけて研究するので、自らの生活や仕事とも関連させて問題意識を深めてください。